

表-1 国内高炉3社の2013年4~12月期

		売上高 (億円)	経常利益 (億円)	当期利益 (億円)	配当 (円)	有利子負債 (億円)	粗鋼生産 (万トン)	平均単価 (円/トン)
新日鉄住金	13.12	40,374	2,822	1,927	—	24,068	3,465	86,700
	12.12	30,726	320	△1,519	—	25,964	3,250	78,100
	13.3	43,899	769	△1,245	1	25,430	4,355	80,100
	14.3	54,500	3,400	2,200	5	—	4,580程度	85,000程度
JFEHD	13.12	26,430	1,247	760	—	15,714	2,144	76,600
	12.12	23,070	228	219	—	16,573	2,166	68,700
	13.3	31,891	522	395	20	15,963	2,797	70,600
	14.3	36,600	1,700	950	40	15,300	2,900程度	76,000
神戸製鋼所	13.12	13,252	673	638	—	—	570	79,400
	12.12	12,477	△162	△226	—	—	526	78,900
	13.3	16,855	△181	△269	0	9,076	701	77,200
	14.3	18,300	700	650	4	7,800	760	79,000

(注1) 粗鋼生産と平均単価は単独ベース(住友金属は日鉄住金と歌山含む、JFEHDはJFEスチールの数値)

(注2) 神戸製鋼の有利子負債残はプロジェクトファイナンスを含まない

(注3) 2014年3月期の数値は予想

需要の堅調などから高炉大手が輸出成約の抑制を続けている結果といわれる。一方、輸入は同47.2%増の87万7,400トンと3カ月連続して増加し、一部の需要家や流通業者が国内需給のタイト感から輸入材の手当てを増やした結果といわれる。輸出の主要な国・地域別内訳は、アジアが前年同月比12.1%減の258万9,000トンで、このうち中国は6.8%増の45万5,000トン、NIE'sが16.0%減の95万3,000トン、ASEANが13.3%減の101万4,000トンとなった。また、米国が0.4%減の18万1,000トン、中東が24.5%減の11万6,000トンとなった。一方、輸入の主要な地域別内訳はアジアが49.6%増の74万5,300トンで、このうち中国からが2.1倍の17万7,500トン、NIE'sからが38.3%増の52万9,200トン、ASEANからが34.5%増の1万1,200トンと大きく増加した。さらにロシアからも81.2%増の2万3,100トン、EUから31.2%増の1万4,000トンとなった。

◆1~3月期粗鋼生産計画、2,766万トン

経済産業省は鉄鋼メーカーからヒアリングした2013年度第4四半期(1~3月)生産計画の集計結果を発表した。それによると、粗鋼生産量は2,766万トンで、2,800万トンを上回った前期に比べ1.7%減となるが、前年同期比では3.8%増となり、好調が続く国内鋼材需要を反映して生産活動は引き続き高水準に推移する見通しである。なお、先月に同省が発表した1~3月期粗鋼相当需要見通し(2,785万トン)とほぼ同水準の生産計画となっている。鋼材生産計画(普通鋼、特殊鋼)は2,452万トンで、前期比1.3%増となる。粗鋼生産が前期比減になるのに対して、鋼材生産が前期比増となるのは、設備修理を控えて積み増していた半製品在庫の消化が進む結果である。1~3月期の普通鋼鋼材生産は前期比1.1%増の1,929万トンと3期連続で増加する。そのうち国内向けは、0.3%と微減の1,270万トンと5期ぶりに減るが、3期連続で1,200万トン台の高水準を維持する。輸出向けは同4.3%増の841万トンと4期ぶりに増えるが、前年同期比7.0%減の水準となっている。特殊鋼鋼材生産は前期比2.0%増の523万トンで、国内向けは0.7%増の340万トン、輸出向けは4.6%増の182万トンと計画されている。

この計画を織り込んだ2013年度の粗鋼生産量は1億1,150万トンと前年度比4.0%増となり、3年ぶりに1億1,000万トン台に乗せ、過去9番目の高水準となる。

◆高炉大手3社、4～12月期業績大幅改善

新日鉄住金、JFEホールディングス、神戸製鋼所の高炉大手3社は2013年4～12月期の連結決算と2014年3月通期の業績見通しを発表した。それによると、4～12月期の経常利益は、新日鉄住金は前年同期（上期は旧両社単純合算）比6.6倍の2,822億円、JFEHDは5.5倍の1,247億円、神戸製鋼所は前年同期の162億円の赤字から673億円の黒字と、揃って大きく改善した。いずれも、自動車や建材分野向け内需増などを受けた数量増やコスト削減、在庫評価益が業績改善に寄与した。通期の連結経常利益見通しについては、新日鉄住金が前年度比3.9倍の3,400億円（旧新日鉄と旧住金の単純合算877億円との比較）、JFEHDが3.3倍の1,700億円、神戸製鋼所が黒字転換（前年度は経常赤字181億円）して700億円としており、いずれも大幅な経常増益となる見込みである。世界の鉄鋼企業の多くが業績低迷から抜け出せない中、日本の高炉企業の業績回復が目立つ。

◆普通鋼電炉二社、相次ぐ事業撤退

2月に普通鋼電炉メーカー2社が相次いで電炉事業から撤退した。2月5日に平鋼専門メーカーの大三製鋼（本社：東京都江東区）が2月末を目途に、2月19日に異形棒鋼メーカーで大阪製鉄の連結子会社である新北海鋼業（本社：北海道小樽市）が3月末を目途に事業活動を停止することを発表した。前者は平鋼市場の縮小から、後者もリーマンショック以降道内の鉄筋需要の激減から売上が大幅に落ち込んでいた。さらに、両社とも電気料金の上昇、鉄スクラップ価格の高値推移から製造コストが上がり、収益が大きく悪化した。前者は様々な経営改善策に取り組んだが、将来的な事業の継続発展は難しいと判断し、後者も設備が老朽化しており、新規設備に再投資しても回収は難しいと判断した。なお、新北海鋼業は営業権の一部を道内の電炉メーカーである清水鋼鉄に譲渡すべく交渉している。

◆1月世界粗鋼生産、前月比0.5%増——WSAまとめ

世界鉄鋼協会（WSA）がまとめた1月の世界（65カ国）粗鋼生産は、1億2,978万3,000トンと前年同月比では0.4%減となったものの、前月比では0.5%増と2カ月連続増となった。操業率は74.4%と前月比0.2ポイント高く、前年同月比では2.5ポイント低かった。中国の生産は前月比1.2%減と2カ月ぶりに減少し、ピークだった2013年5月比8%減となった。中国以外は同2.0%増と3カ月ぶりに増加した。1月の中国の日産量は198万6,000トンと13カ月ぶりに200万トンを下回り、ピークだった2013年2月に比して10%減となった。中国以外の日産量は220万トンと比較的高い水準を保った。新興国では韓国の日産量は前月比3.1%増と2カ月連続で増加し、直近の底だった2013年8月比で23.5%増加し、ピークだった2012年3月に近い水準に回復した。高水準の生産を保つインドは同0.7%増と3カ月連続の増、ブラジルも3.1%増と4カ月ぶりの増となった。先進国では、EU27が前月比9.7%増と12月の11.2%減を経て大きく戻した。北米は0.6%増と4カ月ぶりに増加し、日本は0.7%増と2カ月ぶりに増加した。 □